

培ってきたセラミック鑄込み成形技術をコアに、 研究開発と商社機能で新たな製品分野と市場展開

創業から120余年、碍子(がいし)、配電用カットアウト磁器、遠赤外線セラミックヒーター、遠赤外線電気炭(茶道用湯沸かし電熱器)、焼結石英製品などを製造している。配電用カットアウト磁器は大型で複雑な形状でありながら、7000Vの電圧を絶縁する必要がある。同社は、高い鑄込み成形技術、品質保証体制で電力会社の要求に応じてきた。社是は「堅実経営」「研究開発」「奉仕」で、祖業であるセラミックスの鑄込み成形技術を基にして、ファインセラミックス製品への新たな展開を進めている。

所在地 愛知県瀬戸市宮脇町4番地
 電話/FAX 0561-82-2187/0561-82-3475
 URL <http://www.ymkco.co.jp/>
 代表者 代表取締役社長 加藤 陽太郎

設立 1949年
 資本金 3,600万円
 従業員数 90人



コア技術の研究開発に商社機能を加え、新たな事業の柱を育てる

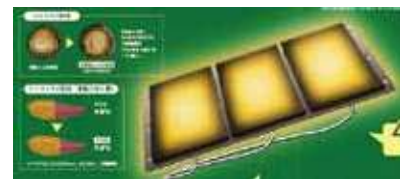
コア技術である鑄込み成形は多品種少量生産を得意とする。電力会社向けの販売においては、この強みが生かしきれていなかった。営業部を強化し商社機能を持たせることで、コア技術を生かした販売戦略を立てることができた。この戦略のもと、少量生産であっても先を見据えたチャレンジングな製品開発を行うことで、新たな顧客ニーズに対応できるようになった。展示会から共同研究がスタートし、開発・販売を開始した高純度アルミナ等のファインセラミックス製品は、こうした取組から生まれ、次の事業の柱に育っている。



多品種少量生産のファインセラミックス

産学行政連携により、主力のセラミックヒーターを農産物加工分野へ新たに展開

主力商品の1つである遠赤外線セラミックヒーターは、工業用として電子機器製造ライン、樹脂成形機等の各種加熱、乾燥設備に使用されている。東京大学、あいち産業科学技術総合センター、愛知県農業総合試験場等との産学行政連携による共同研究により、農林水産物や食品を効率的に加熱・乾燥する低温遠赤外線セラミックヒーターを新たに開発した。ナノカーボン材料を用いた新技術により、水が吸収する波長域の放射率が大幅に高くなったため、従来品よりも水分を多く含む対象物を素早く加熱することができる。



低温遠赤外線セラミックヒーター

人と技術の種をまき続け、会社と社員がともに成長できる人材育成

同社は会社の永続こそがステークホルダーの安心・幸福につながると考えている。同時に人財こそ企業の礎との思いから、不景気なときにこそ新規採用を強化して、人と技術の種をまき続けることで着実に事業を進めてきた。新入社員の教育は、入社2~3年目の若手先輩社員が担当し、孤立することがないように支える体制を整えている。全社員に対して、教育訓練計画書を作成しており、教育内容と達成項目は、上司との話し合いで決めるため、部下は意義のある目標を持つことができ、モチベーションの向上に繋がっている。



若手が長く楽しく働ける環境をめざす